

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人共通の理念として「地域の医療と介護に奉仕する」を、家族や地域の人々・職員の目につきやすい玄関やホール等4箇所に額に入れて掲げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護方針5項目を、理念と共に掲示して、その実現のためユニット会議・全体会議等で徹底している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事には積極的に参加し、近くの幼稚園・保育園の園児、小学校の生徒の訪問を受け入れて利用者との交流をはかっている。調査日にも保育園児12名が来所し、にぎやかだった。更に計画中の子ども図書館を早く立ち上げて、中高生との交流も考えたいという。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設1年未満のため、今回が初の第三者評価の受診である。そのための諸準備や自己評価の作業を通じて、評価の意義は十分に理解されていると判断できる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員・社協役員・地域代表・利用者と家族・管理者と職員をメンバーとして、2ヶ月に1回以上開催している。特徴は 利用者と家族の出席者が多いこと 管理者から、「良いことよりもいいにくいことを言って欲しい」との発言にみられるように、なごやかな雰囲気での会議。直近の会議で、利用者から酒場を作って欲しいとの要望があり、開設を検討中との事。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターには、頻繁に出かけて情報交換を行い、サービスの向上に役立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族のほとんどが地域の人なので、利用者の日ごろの暮らしぶりなどは詳細に報告している。遠方の家族には定期的に連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当者や第三者の連絡先を玄関付近に掲示すると共に、運営推進会議での意見なども参考にして、家族等の意見は最大限運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後1年未満なので、職員の異動の実績はないが、ユニット間の配置換えが影響しないように、1階の多目的室に利用者全員が集まる機会を増やすなど、工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所開設前に職員全員対象に計5回の新人研修と兵庫県の認知症対応者の研修を受講(出勤扱い・交通費事業主負担)している。医療法人として感染症予防研修も医院と合同で実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネの研修会の会場に事業所を提供し、職員も参加させてもらう方法で交流を図っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居当初の家族の来訪時の機会を捕らえて、利用者の生活歴などの把握に努めて、介護計画の作成に活かせるように努力している。季節の衣替えは家族に依頼している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の準備・後片付け、洗濯物の干し・取り入れ・たたみ、掃除等の家事参加や、畑での野菜づくりなど、「昔とった杵柄」を発揮している。職員が学ぶことも多く、「孫に教えてあげた」との満足感が、利用者の生きがいに繋がっている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自分の意向を正確に伝えることが困難な利用者が多いため、家族の意向や本人の日ごろの様子を中心に対処している。更に健康状態の維持向上と精神状態の安定に向けて、支援していくという。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者会議等で、利用者の「出来ること」「出来そうなこと」を選び出して、「出来そうなこと」を「出来ることに」に近付けるためのケアプラン作りに取り組んでいる。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間にとらわれず、ケアプランが心身の変化とかけ離れた場合、担当者会議で検討し変更するなど柔軟に対応している。変更後は家族に説明しているが、今後は担当者会議に家族の参加を考慮中。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営母体が医療法人であり、渡り廊下でつながっている診療所への速やかな受診や院長・看護師が頻りに様子を見に来ることから十分な医療支援が来ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体(医療法人)の特性を生かして、救急時や夜間の対応も十分に出来ている。また週1回精神科の医師の受診も可能である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に関する指針」を定めて、同一法人内の医療機関との連携会議などで徹底している。現在まで具体的な事例はない。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。個人データの管理も来ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりを優先することのないように努めている。朝食は個人の希望に対応して時間を決めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事がもっとも楽しい時間となるように配慮している。調査日の昼食は静かだったが、後で管理者から「ゲストがいる時は、借りてきた猫みたいになるのです」と聞いて納得した。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週5日の入浴日を設定して、基本的には希望を聞いて対応しているが、平均的には週2日の入浴になっている。		家族から希望の多い入浴回数の増加について、入浴を嫌がる人や2人介助の必要な人などの関係で難しさも判るが、週3回の入浴について、前向きに検討されたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の草取りや野菜の収穫、鉢植えなど一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		利用者個々人の生活歴や持てる能力について、今一度見直してみて、喜びや張り合いのある日々の過ごせる支援の方法を考えられたい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩行困難な人が多いことや坂道が多い立地条件から、外出したがる人が多く、車椅子で移動可能な車も購入したので今後は「晴れの日には外へ出よう」を合言葉にして、積極的な外出支援に取り組む予定という。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間および職員の休憩時間などで見守りが1人になり、なおかつ徘徊の危険がある時以外は施錠していない。		廊下、階段、食堂等の区切り部分に簡単な止め金がつけられている。安全上必要とのことであるが、何か他に良い方法がないかひと工夫されたい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人々の協力が得られるように働きかけている。6月に職員と利用者で防災訓練を実施。7月に地域のAEDの使用訓練、10月に地域と共同の防災訓練を予定している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をこまめにチェックし記録している。管理栄養士の指導を受けて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑豊かな自然に調和した和風建築で、随所に採光窓が取り付けられて明るい。共用の空間である多目的室、リビング等は全て畳敷きで利用者は落ち着いた生活をしている。		畳敷き以外のところは居室、廊下等の床は全てソフトフローリングのため、利用者・家族・職員・調査に入った我々も皆スリッパなしだったのだが、職員の一部に上靴を履いているのを見かけた。感染症対策の上からも好ましいことではないと思われる。運営者・管理者でしかるべく対処すること。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が新しいこともあり、居室内のベッドやたんす等は新しいものが持ち込まれている。介護度の低い人はベッドでなくマットと敷き布団にしており、調査当日も布団が干してあり、なぜかほっとした気分を味わった。		